2006・No.3　　2006年5月15日発行 (通巻157)

神経科学ニュース

Neuroscience News・Japan Neuroscience Society

〒113-0033　東京都文京区本郷7丁目2-2本郷ビル9F
日本神経科学学会
TEL: 03-3813-0272 FAX: 03-3813-0296
E-mail office@jnss.org
http://www.jnss.org

Neuroscience2006 第29回日本神経科学大会

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
事前参加登録の締め切りは平成18年5月31日(水)12：00です
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

第29回日本神経科学大会は2006年7月19日(水)から21日(金)まで国立京都国際会館にて開催します。一般演題の採択の可否を筆頭著者にメールにて、4月末日までに連絡いたしました。まだ通知が届いていない方は大会事務局(neuro2006@congre.co.jp)までご連絡ください。なお、会員登録をお済ませでない方、年会費未納の方は筆頭著者として演題発表をすることができません。学会事務局から連絡がありましたら、速やかに手続きをお願いいたします。

今大会では、特別講演6題、受賞講演2題、シンポジウム・テクニカルセミナー・特別企画50企画、262題、一般口演145題、ポスター発表1,101題、ランチョンセミナー12題、合計1,528演題と、2005年横浜大会を200演題以上上回る演題登録をいただき、これまでで最大規模の大会になります。学会会員の皆様を中心に幅広い分野の方々から本大会にお寄せいただいた熱い期待に心から感謝申し上げます。多数の演題発表を限られた会場でおこないますので、早朝より夜までの日程となりました。現在予定しているプログラムの概要を末尾に掲載いたします。

目　　次

Neuroscience2006 第29回日本神経科学大会 …… 1
IBRO APRC Associate School in Xian（西安）…… 6
平成18年度日本神経科学学会奨励賞受賞者が決定 …… 7
ブレインサイエンス振興財団平成17年度研究助成贈呈者決定 …… 7
シンポジウム・研究会のお知らせ …… 8
研究助成 …… 15
公募 …… 18
その他 …… 22
編集後記 …… 23

特別講演と受賞者講演について、ご講演いただく先生方のお写真、講演要旨、講演日時・場所などを大会ホームページ(http://www.congre.co.jp/neuro2006/)に新たに紹介しましたのでご覧下さい。SfN Abstract Viewer and Itinerary Planner同様、すべての演題の発表者、所属、演題、発表時間・会場、抄録などについて項目別に検索し、日程表を作成することができる抄録データベースを5月末日までにホームページよりダウンロードしてご利用いただけるよう、ただいま準備を進めております。また、プログラム冊子および抄録データベースを収録したCD-ROMは、6月下旬に事前参加登録された方のお手元に郵送する予定です。

事前参加登録について:
事前参加登録の締め切りは上記のとおり5月31日(水)です。事前参加登録費は、当日参加登録費より正会員で2,000円、学生会員で1,000円お安くなっております。支払いは、郵便振替、コンビニ支払、クレジット決済をご利用いただけます。また、研究成果発表のための大会参加費は科学研究費補助金などによる支払いが可能です。手続きについては所属の事務担当者にご確認ください。お忘れなく事前参加登録を済ませてくださるようご案内いたします。

トラベルアウォードについて:
大会の国際化のために、アジア諸国を中心として若く、活発な神経科学の研究者が日本の神経科学大会に最新の研究成果を発表し、参加者との交流を積極的に進めるために、トラベルアウォードを募集しました。アジア地域若手研究者、海外在住日本人ポスドクなどから76名の応募があり、厳正なる審査の結果41名を候補者とすることを決定しました。受賞者の所属は、インド13名、イラン8名、中国7名、韓国2名、日本(海外在住ポスドク)2名、米国、オーストラリア、トルコ、スリランカ、タイ、台湾、フランス、マレーシア、ロシア各1名でした。受賞者、演題などの詳細は大会ホームページをご覧ください。

シンポジウム、一般口演の発表言語について:
大会の国際化の趣旨に沿って、今大会のシンポジウム・テクニカルセミナー48企画・251演題の中、30企画・50演題は国外の活発な研究者による演題です。また、上記のようにアジア諸国を中心に41名のトラベルアウォード受賞者が参加いたします。したがって、シンポジウム講演は英語でお願いいたします。一般口演につきましても英語での発表を推奨し、演題登録の際に発表言語(英語・日本語)をお知らせいただきました(一般口演145題中108題は英語、37題は日本語での発表)。一般演題プログラムに、お知らせいただいた発表言語を明記させていただき、同一セッション内では英語での発表を先に行います。

大会受付での認定医研修単位認定について:
本大会への参加は、日本神経学会、日本精神神経学会、日本小児神経学会および日本良導絡自律神経学会の認定医研修単位の対象となります。神経学会専門医の先生方には、本大会受付に設置予定の単位認定手続きの窓口で、「認定更新単位登録票」に記入・捺印いただくだけで手続きは完了します。日本精神神経学会の専門医資格更新にかかる研修ポイントの取得は、大会の「研修ポイント受付」で「精神科専門医認定試験合格者証(ポイントカード)」を提示くだされば、係員が専用パソコンにてポイント数を入力することで可能です。

本大会は学会の認定医をめざす若い医師の方々にとって臨床あるいは基礎神経科学の最先端研究の講演を聴いたり、多くの研究者とコミュニケーションをはかる大変良い機会ですので、是非本大会へ参加くださるようご案内いたします。

大会に関する質問・提案等ありましたら、大会事務局(ns2006@koto.kpu-m.ac.jp) までお願いします。

第29回(2006)日本神経科学大会執行委員会
大会長　木村　實(京都府立医科大学)
プログラム委員長　河田光博(京都府立医科大学)
実行委員長　中川正法(京都府立医科大学)
実行委員長　伏木信次(京都府立医科大学)
実行委員　福山秀直(京都大学)

第29回日本神経科学大会　第1日
2006年7月19日（水曜）

	第1会場 1階 大会議場	第2会場 2階 Room-A	第3会場 1階 Room-D	第4会場 地階 Room-E	第5会場 2階 Room-B1	第6会場 2階 Room-B2	第7会場 1階 Room-C1	第8会場 1階 Room-C2	ポスター会場 イベント ホール
席数	1840席	520席	250席	230席	230席	160席	120席	120席	190題
8:00									8:30
8:30	9:00								ポスター準備 9:00
9:00	シンポジウム **SY1-1-1** 神経回路形成における細胞認識の特異性 座長　岩里 琢治 上村 匡 演者5名	シンポジウム **SY1-2-2** Dendritic Spineにおけるシグナル伝達 ー1分子・1シナプスの動態ー 座長　松崎 政紀 演者5名	シンポジウム **SY1-3-3** 分子イメージングの展望：基礎の成果を臨床へ 座長　米倉 義晴 演者5名	シンポジウム **SY1-4-4** 神経栄養因子の神経保護・再生・神経新生促進機能と今後の展望 座長　船越 洋 武井 延之 演者5名	シンポジウム **SY1-5-5** 発達障害の脳科学 座長　伏木 信次 演者5名	シンポジウム **SY1-6-6** 感覚器の発生メカニズムの最前線 座長　渡辺すみ子 古川 貴久 演者7名	シンポジウム **SY1-7-7** 血圧を調節する脳機能解明に向けて ～新しいストラテジー～ 座長　前田 正信 上田 陽一 演者6名	シンポジウム **SY1-8-8** てんかん発作発現前の脳可塑性変化とてんかん原性 座長　村島 善也 演者4名	ポスター閲覧 11:00 ポスター討論 12:00 ポスター撤去
11:00	11:30								
11:30	プレナリーレクチャー **PL1-1-1** W.Newsome	11:30	11:30 12:30	11:30	11:30	11:30	11:30	11:30	
12:00									
12:30	12:30		ランチョンセミナー1	ランチョンセミナー2	ランチョンセミナー3	ランチョンセミナー4			12:30 14:00 ポスター準備 14:30
13:00	13:30								
13:30	プレナリーレクチャー **PL1-1-2** A.Hobson	14:30	13:30						
14:00									
14:30	シンポジウム **SY1-1-9** FMRIを中心とした脳機能イメージングの新戦略 座長　坂井 克之 演者5名	シンポジウム **SY1-2-10** 不随意運動の臨床神経生理 座長　柴崎 浩 演者4名	シンポジウム **SY1-3-11** プレシナプス研究最前線 蛋白分子と生理機能 座長　持田 澄子 演者5名	シンポジウム **SY1-4-12** 発達および回復期における神経回路機能の再編成 座長　鍋倉 淳一 加藤 宏之 演者5名	シンポジウム **SY1-5-13** パーキンソン病研究の最前線：システムから分子まで 座長　高橋 良輔 高橋 淳 演者5名	シンポジウム **SY1-6-14** 行動を司る遺伝的基盤の解明に向けて 座長　小出 剛 飯野 雄一 演者6名	シンポジウム **SY1-7-15** スパイクに基づく情報表現と計算 座長　深井 朋樹 加藤 英之 演者5名	シンポジウム **SY1-8-16** 脳辺縁系-視床下部-脳幹部の構造・機能連関の探究―認知、記憶から情動まで 座長　井樋 慶一 柳川右千夫 演者5名	ポスター閲覧 16:30 ポスター討論 17:30 ポスター撤去
15:00									
15:30									
16:00									
16:30									
17:00	シンポジウム **SY1-1-17** 遺伝子改変動物を用いた脳の高次機能解析 座長　大隅典子 八木 健 演者5名	シンポジウム **SY1-2-18** 脊椎動物と無脊椎動物に見られる神経系の再生 座長　久恒 辰博 玉巻 伸章 演者6名	シンポジウム **SY1-3-19** 精神神経疾患の病因解明を目ざす神経栄養因子研究の最前線 座長　功刀 浩 小島 正己 演者6名	シンポジウム **SY1-4-20** 運動関連皮質と脊髄の進化と可塑性 座長　伊佐 正 大木 紫 演者5名	シンポジウム **SY1-5-21** 記憶研究の新展開：再固定と消去の分子機構 座長　井ノ口 馨 喜田 聡 演者5名	シンポジウム **SY1-6-22** 軸索とミエリンのクロストーク 座長　中川 正法 山下 俊英 演者5名	シンポジウム **SY1-7-23** 温度受容・体温調節の分子機構 座長　杉本 幸彦 富永 真琴 演者5名	シンポジウム **SY1-8-24** 細胞周期から見た神経変性と癌の統合的戦略 座長　橋本 款 演者7名	18:00
17:30									
18:00									
18:30									
19:00									
19:30	19:30						**サテライトシンポジウム** 経頭蓋磁気刺激の治療への応用 －奏功機序の解明を目指して－ 主催者　吉峰俊樹	19:30	
20:00									
20:30									
21:00							21:00		

機器展示 9:00 – 18:30

第29回日本神経科学大会　第2日
2006年7月20日（木曜）

	第1会場 1階 大会議場	第2会場 2階 Room-A	第3会場 1階 Room-D	第4会場 地階 Room-E	第5会場 2階 Room-B1	第6会場 2階 Room-B2	第7会場 1階 Room-C1	第8会場 1階 Room-C2	ポスター会場 イベント ホール	
席数	1840席	520席	250席	230席	230席	160席	120席	120席	190題	
8:00	8:30			8:30				8:30	8:30	9:00
8:30	シンポジウム **SY2-1-1** 視覚的動き・色・形の中枢処理 座長　田中　啓治 演者5名 11:20	9:00 シンポジウム **SY2-2-2** 神経細胞とシステムに対するホルモン作用：シナプス形成から行動制御まで 座長　河田　光博 筒井　和義 演者5名	シンポジウム **SY2-3-3** 大脳皮質の局所神経回路 座長　窪田　芳之 吉村由美子 演者6名	テクニカルセミナー **SY2-4-4** MRIと他の指標の同時計測 座長　宮内　哲 演者5名	9:00 シンポジウム **SY2-5-5** ミクログリアと中枢神経病変 座長　秋山　治彦 演者4名	シンポジウム **SY2-6-6** 脳機能研究における倫理的フロンティア 座長　Judy Illes 佐倉　統 福士　珠美 演者6名	シンポジウム **SY2-7-7** エピジェネティック神経科学　ー生物学的基礎から疾患までー 座長　中島　欽一 久保田健夫 演者6名	口演 **OS2A-8** 15.再生、移植　2題 31.睡眠、生体リズム　1題 33.認知　9題	ポスター準備 9:00 ポスター閲覧 10:30 11:00 11:30 ポスター討論 12:00 ポスター撤去	機器展示
11:30	プレナリーレクチャー **PL2-1-1** T.Bonhoeffer	11:30	11:30 12:30	11:30	11:30	11:30	11:30	11:30		
12:30	12:30 13:30		ランチョンセミナー 5	ランチョンセミナー 6	ランチョンセミナー 7	ランチョンセミナー 8	ランチョンセミナー 9		12:30	
13:30	特別講演 **SL2-1-1** 14:20 丹治　順	14:00	13:30						14:00	
14:00	時実賞受賞講演 **TZ2-1-1** 15:00	シンポジウム **SY2-2-8** 認識と行為 座長　Roger Lemon 入來　篤史 演者5名	シンポジウム **SY2-3-9** 神経軸索の伸長とガイダンスメカニズム 座長　五嶋　良郎 貝淵　弘三 演者5名	口演 **OS2P-4** 18.視覚　15題	シンポジウム **SY2-5-10** 脳機能光イメージングによる脳機能計測の利点と問題点 座長　酒谷　薫 渡辺　英寿 演者6名	シンポジウム **SY2-6-11** 高次視覚機能の病態・機構・再生 座長　河村　満 演者5名	口演 **OS2P-7** 16.神経細胞死、アポトーシス　3題 17.運動　10題	シンポジウム **SY2-8-12** 脳虚血と再生医学 座長　吉峰　俊樹 演者4名	ポスター準備 14:30 ポスター閲覧 16:30	
15:00	塚原賞受賞講演 **TS2-1-1** 15:40 伊佐　正									
15:30	特別企画 **SE P-2** 神経科学における男女共同参画はどうあるべきか？									
16:30	特別企画 **SE P-1** 脳科学の研究費を考える：研究費はどのように決められ、どのように使われるべきかーよりよい研究環境を求めて	口演 **OS2P-2** 3.シナプス可塑性　5題 13.栄養因子・サイトカイン　1題	口演 **OS2P-3** 11.細胞分化　6題	17:45	口演 **OS2P-5** 7.軸策輸送　3題 9.血液脳関門　3題	口演 **OS2P-6** 24.自律神経系　3題 25.神経内分泌系　2題 26.神経免疫　1題	17:15	口演 **OS2P-8** 1.イオンチャンネル　2題 20.嗅覚、味覚　2題 30.本能と情動行動　1題	ポスター討論 17:30 ポスター撤去	
17:00										
17:30										
18:00	18:00				18:00		**総会**	18:00	18:00 19:00	18:30
19:00							19:00		**懇親会** （会場：サクラ）	
19:30										
20:00										
20:30										
21:00									21:00	

第29回日本神経科学大会　第3日
2006年7月21日（金曜）

	第1会場 1階 大会議場	第2会場 2階 Room-A	第3会場 1階 Room-D	第4会場 地階 Room-E	第5会場 2階 Room-B1	第6会場 2階 Room-B2	第7会場 1階 Room-C1	第8会場 1階 Room-C2	ポスター会場 イベント ホール	
席数	1840席	520席	250席	230席	230席	160席	120席	120席	190題	
8:00										
8:30	8:30 特別講演	9:00							8:30 ポスター準備	
9:00	**SL3-1-1** 廣川信隆	シンポジウム **SY3-2-2**	シンポジウム **SY3-3-3**	シンポジウム **SY3-4-4**	口演 **OS3A-5**	口演 **OS3A-6**	口演 **OS3A-7**	シンポジウム **SY3-8-5**	9:00	9:00
9:30	シンポジウム **SY3-1-1**	拡散強調画像の現状とこれからの展開	GABA性シナプス伝達の制御機構	ニューロン・グリア回路網による情報処理 -細胞の機能から回路の機能へ-	12.突起伸展、回路網形成 10題	22.痛覚 3題 32.学習、記憶 6題	39.虚血 4題 41.老化、痴呆、アルツハイマー病 5題 45.てんかん 1題	脳と生殖：生殖の中枢制御機構をめぐる神経生物学	ポスター閲覧	
10:00	神経細胞機能とポリグルタミン移送									
10:30	座長　辻　省次	座長　福山　秀直	座長　平野　丈夫	座長　坪川　宏 宮川　博義				座長　岡　良隆 前多敬一郎	11:00	
11:00	11:30　演者4名	演者4名	演者4名	演者5名		11:15		演者5名	ポスター討論	
11:30	プレナリーレクチャー **PL3-1-1** L. Landmesser	11:30	12:30						12:00	
12:00									ポスター撤去	
12:30	12:30		ランチョンセミナー 10	ランチョンセミナー 11	ランチョンセミナー 12	**サテライトシンポジウム** 虚血性脳血管障害再生医療の基盤としての幹細胞生物学 主催者　日合　弘			12:30	機
13:00										
13:30			13:30							器
14:00	14:00						14:00		14:00	
14:00	シンポジウム **SY3-1-6**	シンポジウム **SY3-2-7**	シンポジウム **SY3-3-8**	口演 **OS3P-4**	シンポジウム **SY3-5-9**	シンポジウム **SY3-6-10**	シンポジウム **SY3-7-11**	シンポジウム **SY3-8-12**	ポスター準備 14:30	展
14:30	脳の基本構造の形成と神経細胞移動	環境に起因する神経変性疾患	ヘッブの細胞集成体，シナプス可塑性仮説の新たな展開	18.視覚 14題	中枢時計と末梢時計機構に基づく時計遺伝子の多彩な機能	神経系における特異的遺伝子発現方法を求めて―ウイルスベクターを用いた神経研究の新しい可能性	定位脳手術の新展開：基礎と臨床の融合を目指して	甲状腺ホルモン系と脳発達 -環境影響から気分障害まで-		
15:00										
15:30	座長　仲嶋　一範 村上富士夫	座長　石堂　正美 増尾　好則	座長　渡邊　正孝 櫻井　芳雄		座長　柴田　重信	座長　平井　宏和 柚崎　通介	座長　高田　昌彦 南部　篤	座長　加藤　進昌 鯉淵　典之	ポスター閲覧	示
16:00	演者5名	演者6名	演者5名		演者5名	演者5名	演者6名	演者5名	16:30	
16:30	16:30	口演 **OS3P-2** 2.シナプス 6題	口演 **OS3P-3** 4.神経伝達物質 2題 6.情報伝達 4題		口演 **OS3P-5** 48.イメージング 6題	口演 **OS3P-6** 34.疾患モデル 36.パーキンソン病・・・ 38.神経筋疾患 42.薬物依存・・・ 46.脱髄性疾患　計6題	口演 **OS3P-7** 19.聴覚、前庭感覚 3題	口演 **OS3P-8** 8.グリア、ミエリン 3題 10.パターン形成 2題 14.細胞接着因子 1題	ポスター討論 17:30	
17:00							17:15			
17:30				17:30					ポスター撤去	
18:00		18:00			18:00			18:00	18:00	
18:30										18:30
19:00										
19:30										
20:00										
20:30										
21:00										

IBRO APRC Associate School in Xian （西安）

岡本仁、理研脳センター

IBRO (International Brain Research Organization)は、APRC(Asia-Pacific Region Committee)を通じて、アジア太平洋地域の神経科学の振興を目的とする様々な活動を行っています(神経科学ニュース 2006 No.2)。その一環として、主に学部学生や大学院初年度の神経科学の初心者の学生を対象として、Associate School をおこなっています。IBRO School が 1 ～ 2 週間の実習を伴うのに対して、Associate School は 4 ～ 5 日間で、神経科学の特定の分野の講義や文献検索をもとにして研究をレヴューする実習等が主に行われています。

今回私は、中国の西安で 4 月 4 日から 9 日まで行われたものに、講師として参加しました。西安は、唐の時代まで長安の都として栄えた町であり、その周辺には秦の始皇帝の陵墓を護る兵馬俑を始めとして歴史的な遺産が数多く有ります。中国経済の好調を反映してか、町の道路は新しい自動車であふれかえっており、オリンピックに向けて、あちこちで高層ビルの建築が急ピッチで進んでいました。講習は、陸軍第 4 医学校の 30 数階建ての校舎の会議室で行われました。講習の進行を手伝ってくださったアシスタントの方々の、軍服とハイヒールをおしゃれに着こなすというファッションも、現代中国の政治経済状況をある種象徴するようで印象的でした。

講師としては私の他に、James Brock (オーストラリア)、WingHo Yung(香港)、Ken K. Yung (香港)博士が参加し、電気生理や神経発生の基礎的な授業から始まり、それぞれの講師の専門分野に応じて、自律神経系における神経筋接合、BDNF と神経系の可塑性、環境物質と神経毒性(特にパラコートやロテノンの基底核への影響)、運動神経細胞の分化機構、についての論文演習を行いました。28 人の学生は、中国全土から選ばれてきており、まる一日以上列車に揺られてきたという学生もたくさんいました。またこのうち 13 人が女性であった事も印象的で、論文演習などにおいても、女性の学生の積極さが大変印象的でした。学生達は皆、インターネットの利用になれており、関連するサイトを素早く見つけて、与えられた課題の学問的位置づけや、将来的な課題、実用への可能性などを組織的に調べた上で、非常に達者な英語でプレゼンテーションすることに大変感心しました。また彼らのうちの何人かは、論文について、非常に本質をついた問題点や疑問点を見つけ出して、熱心に質問をしてきました。総じて、彼らの優秀さと熱心さに舌を巻きました。

オーストラリアや香港では、優秀な学生やポスドクを中国から得たいと、このような講習会に講師として参加することに大変熱心です。講義の一環として、海外留学する事の意義というセッションも設けており、講師側、参加者側が双方とも、この事に熱心である事が伺われました。今後、講師をやってみたいとお考えの、日本神経科学会の会員の方がいれば、ぜひ岡本までお知らせください(hitoshi@brain.riken.jp)。また、日本の学生さん達も、ぜひ参加を御勧めします。参加旅費は、IBRO APRC に応募する事ができます。昇り調子の国の熱心な学生さんの熱気に刺激を受ける良い機会になるのではないでしょうか。

写真 1:論文演習グループの学生さん達

写真 2:兵馬俑の前の講師陣
(左から私、K.K. Yung, J.Brock, W.H. Yung 博士)

平成18年度日本神経科学学会奨励賞受賞者が決定

平成18年度日本神経科学学会奨励賞は下記の5名の方が受賞される事に決定しました(括弧内に所属と申請課題を示します)。授賞式は第29回日本神経科学大会会期中に、開催されます。

池谷 裕二 (東京大学、皮質ネットワーク演算とその高次可塑性に関する解析)
宇賀 貴紀 (順天堂大学、大脳皮質視覚連合野における両眼立体視機能の解析)
掛川 渉 (慶應義塾大学、シナプス機能を担うグルタミン酸受容体の生理的役割と動態に関する研究)
久場 博司 (京都大学、層状核における聴覚同時検出精度の特徴周波数依存性)
田中 真樹 (北海道大学、眼球運行の制御における視床および前頭葉の役割に関する研究)
(50音順；敬称略)

ブレインサイエンス振興財団 平成17年度 塚原賞授賞者・研究助成贈呈者決定

財団法人ブレインサイエンス振興財団(伊藤正男理事長)は、生命科学の分野で優れた独創的研究を行っている45才以下の研究者の中から毎年原則として1名を選び【塚原仲晃記念賞】を、またブレインサイエンス研究分野において独創的で国際的評価に値する研究を行っている研究者の中から毎年8～10名を選び【研究助成金】を贈呈している。

【平成17年度 塚原仲晃記念賞受賞者】 1名

伊佐 正　自然科学研究機構生理学研究所教授
「運動制御回路の構造・機能と損傷後機能代償」

【平成17年度 研究助成金受領者】 10名

蟻川謙太郎 横浜市立大学研究院神経行動学研究室教授
「昆虫一次視覚中枢における波長情報処理機構」

大塚稔久 富山大学医学部臨床分子病態検査学講座助教授
「シナプス形成におけるCASTの機能」

小幡文弥 北里大学医療衛生学部教授
「新規キナーゼ様分子LRRK2の機能解析」

鎌田恭輔　東京大学医学部脳神経外科助手
「言語脳機能の画像化と電気生理学的検証」

窪田芳之 自然科学研究機構生理学研究所助教授
「皮質局所神経回路の興奮性抑制性入力特性」

斎藤哲一郎　千葉大学大学院医学研究院教授
「交連神経細胞の分化運命を決める分子機構」

久恒辰博　東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
「成体海馬でのニューロン新生に関する研究」

平田普三　名古屋大学大学院理学研究所助手
「行動を制御する神経回路の遺伝学的解析」

福田光則　理化学研究所福田独立主幹研究ユニットリーダー
「Rab27によるシナプス小胞輸送の制御」

増田知之　福島県立医科大学医学部助手
「一次求心性線維の投射路を形成する分子機構」

INFORMATION

シンポジウム・研究会

生理学研究所・大学院 夏期体験入学 プログラム・入学生募集

生理学研究所大学院(総合研究大学院大学生命科学研究科生理科学専攻)では、大学院進学先を探していらっしゃる学部学生、大学院修士課程学生の皆さんに生理研での大学院生活、研究生活がどのようなものか実地体験していただくための「体験入学プログラム」を開講します。

期間：2006年7月－9月の1週間程度
場所：愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38
自然科学研究機構　生理学研究所（http://www.nips.ac.jp/）
募集人数: 20名程度
参加費: 無料　(旅費、ロッジ宿泊費を一部補助します)
応募資格: 大学生、修士課程大学院学生
応募期間: 5月1日(金)～6月16日(金)
(応募期間以外の申込は受け付けません)
詳細、応募は
http://www.nips.ac.jp/daigakuin/2007/summer/
を参照して下さい。

学術創成研究 『フェロモン系を介する視床下部辺縁系機能の制御』主催 国際シンポジウム

Evolutionary Aspects of Chemical Communication and Animal Behavior

(事前登録不要、参加費不要)

2006年5月23日(火)　10:00－17:00

嗅覚や味覚など化学的情報通信のメカニズムが急速に解明されつつある。そして哺乳類の多くの動物種において、こうした感覚が多様な生得的行動の発現や生理機能の調節に大きな役割を果たしていることが新たに分かってきた。本シンポジウムでは、化学感覚をキーワードとして、分子生物学から生態学まで広い分野から哺乳類の行動とケミカルコミュニケーションの関連について議論を深めたい。
(なお発表と討論は英語で行います)

会場:東京大学本郷キャンパス　山上会館
http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_00_02_j.html
主催:学術創成研究『フェロモン系を介する視床下部辺縁系機能の制御』プロジェクト
http://www.vm.a.u-tokyo.ac.jp/koudou/SouseiTOP.htm

PROGRAM
イントロダクション
10:00－10:10 森　裕司　(東京大学大学院農学生命科学研究科教授・学術創成研究『フェロモン系を介する視床下部辺縁系機能の制御』代表)

第1部:フェロモンの探索研究
モデレーター　長谷川寿一(東京大学大学院総合文化研究科教授)
10:10－10:50 ラットの警報フェロモン
清川泰志 (日本学術振興会研究員・東京大学)
10:50－11:30 雄効果フェロモンの探索
岡村裕昭　(生物資源研究所神経内分泌チーム長)
11:30－12:10 マウス鋤鼻神経に作用する新規分泌ペプチドファミリー
東原和成　(東京大学新領域創成科学研究科助教授)

昼食 12:10-13:30

第 2 部:化学感覚と行動
モデレーター　佐久間康夫(日本医科大学教授)
13:30 ― 14:10 野生動物の薬草利用行動における化学感覚の役割
Benjamin Hart (U.C. Davis 獣医学部教授)
14:10 ― 14:50 社会行動の基盤となるケミカルコミュニケーション
Keith Kendrick(英国 Babraham 研究所所長)
14:50 ― 15:30 合成フェロモンによる家畜の行動制御法の開発と応用
Patrick Pageat(仏国フェロシンセース代表)

第 3 部:パネルディスカッション
司会　森　裕司
16:00 ― 17:00 演者・モデレーターに加え、パネラーとして市川真澄(東京都神経科学総合研究所)、渡邉秀典(東京大学)、山岸公子(東京都臨床医学研究所)、菊水健史(東京大学)、武内ゆかり(東京大学)Linnet Hart(U.C. Davis)など

連絡先　〒113-8657　東京都文京区弥生 1-1-1　東京大学獣医動物行動・岡本、菊水
Tel: 03-5841-5475 Fax: 03-5841-8190 E-mail: amokamo@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

AACL-Nagasaki Symposium ASIAN AGING 2006: The Regional Aging Connection and the Future

日時:平成 18 年 6 月 17 日(土)9:30 ～ 17:30
会場:やすらぎ伊王島　海の見えるホテル　浜風のホール
長崎市伊王島町　電話 095-898-2202　http://www.ioujima.jp/

討論主題:アジアの老化研究動向、老化における遺伝子発現とシグナル伝達、記憶・可塑性と脳の老化および神経変性疾患、栄養代謝とカロリー制限と老化

招待講演:Sang Chul Park, Bill P Chan, Eun Seong Hwang, In Kwon Chung, Makoto Kuroo, Kyu Won Kim, Eun-Kyoung Choi, Stephan Spindler, Hae Young Chung, Jim Nelson, 田平武、丸山直記、遠藤昌吾、坂口末広、岩坪威、他

プログラム:
9:30-9:45
Welcome Remarks: Shigeru Katamine
General Introduction　Nozomu Mori
9:45-10:30
Perspectives on Aging in Japan and Asia
　Sang Chul Park (SNU, Seoul)
　Bill P. Chan (AIB, Beijing)
　Takeshi Tabira (NILS, Oobu)
10:40-12:00
Gene regulation and Signal transduction in Aging
　Eun Seong Hwang (Seoul, Seoul)
　In Kwon Chung (Yonsei, Seoul)
　Naoki Maruyama (TMIG, Tokyo)
　Makoto Kuroo (Dallas, TX)
13:20-15:20
Memory, Plasticity and Brain Aging
　Shogo Endo (OIST, Okinawa)
　Nozomu Mori (Nagasaki)
　Kyu Won Kim (SNU, Seoul)
　Suehiro Sakaguchi (Tokushima)
　Eun-Kyoung Choi (Hallym, Seoul)
　Takeshi Iwatsubo (Tokyo)
15:50-17:10
Nutrition and Neuroendocrine Controls of Aging
　Stephan Spindler (Riverside, CA)
　Hae Young Chung (Pusan)
　Jim Nelson (San Antonio, TX)
　Isao Shimokawa (Nagasaki)

参加費:一般 2000 円、学生 500 円

参加申込方法:下記へメールにて連絡。当日参加も可能ですが、なるべく事前参加申込をして下さい。

問合せ・申込先: 〒852-8523　長崎市坂本1-12-4
長崎大学医学部解剖学第一教室内　ＡＡＣＬ-Nagasaki Symposium事務局　担当　森崎　電話:095-849-7019　ファックス:095-849-7017
E-mail: morisaki@ nagasaki-u.ac.jp

千里ライフサイエンスセミナー「蛋白質の修飾と機能制御」

日時:平成18年7月5日(水)10:00 〜 17:00
場所:千里ライフサイエンスセンタービル5階ライフホール
着眼点:ポストゲノムの時代において、個々の蛋白質の機能と制御の解明が重要な研究課題となっている。古くから蛋白質のリン酸化がその機能制御に重要な役割を果たしていることが知られているが、近年、アセチル化、メチル化、ユビキチン化なども細胞内での蛋白質の機能制御に働いていることが分ってきた。研究の現状を紹介し、今後の展開について議論したい。
コーディネーター:大阪大学大学院生命機能研究科　花岡文雄
京都大学大学院生命科学研究科　西田栄介
プログラム:
1．ヒストンのメチル化修飾と高次クロマチン構造形成機構
　理化学研究所発生・再生科学総合研究センター　中山潤一
2. MAPキナーゼシグナル伝達の制御機構と機能
　京都大学大学院生命科学研究科　西田栄介
3．リン酸化とアセチル化によるp53とRB蛋白質の生理機能の制御
　国立がんセンター研究所放射線研究部　田矢洋一
4．DNA修飾におけるユビキチン化の役割
　大阪大学大学院生命機能研究科　花岡文雄
5．オートファジーによる細胞内の大規模分解
　東京都臨床医学総合研究所タンパク質代謝プロジェクト　水島昇
6．神経疾患に関わる蛋白質の種々の修飾
　京都大学大学院生命科学研究科　垣塚彰
定員:300名
参加費:会員(大学・官公庁職員、当財団の賛助会員)3,000 円
　非会員　5,000円、学生　1,000円
申し込み要領:
(1)氏名、勤務先、〒所在地、所属、電話およびFAX番号を明記の上、郵便、FAXまたはE-mailで下記宛お申し込み下さい。
(2)事務局より受付の通知を返送いたしますので、通知書に記載した振り込み先口座に参加費をお振り込み下さい。
(3)入金を確認後、通常2週間以内に領収書兼参加証をお届けいたします。
申込先:
(財)千里ライフサイエンス振興財団
セミナーW1係
〒560-0082
大阪府豊中市新千里東町1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル8階
TEL 06-6873-2001　FAX 06-6873-2002
E-mail tnb-lsf@senri-lc.co.jp

第6回神経組織プロテオグリカン研究会開催のお知らせ

＊　日時:2006年7月22日(土)午後1時〜5時
＊　場所:京都工芸繊維大学1号館2階大講義室
〒606-8585　京都市左京区松ヶ崎御所海道町
＊　参加申し込み:
事前登録不要、ただし懇親会(3,000円)に参加される方は7月18日までご連絡ください
＊　プログラム
1．藤川顕寛(自然科学研究機構・基礎生物学研究所
「中枢神経系におけるPtprzの機能」
2．宮田清司(京都工芸繊維大学応用生物学科)
「Tissue Plasminogen Activatorによるコンドロイチン硫酸プロテオグリカンの発現調節と神経系の可塑性」
3．青野幸子(愛知県発達障害研究所)
「膜結合型コンドロイチン硫酸プロテオグリカンであるニューログリカンCの神経系におけ

る役割」
4．稲谷　大(熊本大学医学部眼科)
「中枢神経発生におけるヘパラン硫酸の必要性」
5．桝正幸(筑波大学・大学院人間総合科学研究科)
「神経発生を制御するヘパラン硫酸エンドスルファターゼの働き」
6．懇親会

＊　連絡先:世話人　宮田清司(京都工芸繊維大学応用生物学科)
TEL:075-724-7796, E-mail: smiyata@kit.ac.jp

サテライトワークショップ「大脳皮質・海馬の局所神経回路研究」のお知らせ

会期:平成18年7月24－26日
会場:岡崎コンファレンスセンター(愛知県岡崎市明大寺町伝馬)
Web:http://www.nips.ac.jp/cortex/indexJ.html
第35回生理研コンファレンス・統合脳国際シンポジウム・日本神経科学会大会サテライトワークショップ「大脳皮質・海馬の局所神経回路研究」を、岡崎コンファレンスセンターにて開催します。参加申込、ポスター演題を現在募集中です。詳しくは、上記ウェブページをぜひご覧下さい。なお、事前申込期間は、5月1日より6月9日です。

講演者リスト
Edward M Callaway (Salk Inst., USA)
Takao K Hensch (理化学研究所-BSI)
Sacha B Nelson (Brandeis Univ., USA)
Victoria M Puig (NIPS, Okazaki & MIT, USA)
Kathleen Rockland (理化学研究所-BSI)
Jackie Schiller (Technion, Israel)
Gabor Tamas (Univ. of Seged, Hungary)
池谷裕二(東京大学)
川口泰雄(生理学研究所)
木村文隆 (大阪大学)
窪田芳之(生理学研究所)
小松由紀夫(名古屋大学)
重本隆一(生理学研究所)
神野尚三(Oxford 大学、英国)
福田孝一(九州大学)
藤田一郎(大阪大学)
吉村由美子(名古屋大学)

ワークショップ事務局
連絡先メイル:cortex@nips.ac.jp
世話人:窪田　芳之(生理研)
　　吉村　由美子(名古屋大)

2006年自然科学研究機構生理学研究所第17回生理科学実験技術トレーニングコース

“生体機能の解明に向けて”―分子・細胞からシステムレベルまで―

2006年7月31日(月)午後－8月4日(金)
場所　自然科学研究機構生理学研究所
(明大寺地区、山手地区)

7月31日(月)午後
講演
岡村康司　岡崎統合バイオサイエンスセンター・神経分化研究部門・教授
「膜電位情報はどのように細胞の中へ伝えられるか?:膜電位感受性タンパクの多様性と原理」
各部門の研究紹介

8月1日(火)－4日(金)
実習内容
位相差電子顕微鏡の原理と実践
免疫電子顕微鏡法
N-結合型糖鎖の解析
in vitro 発現系を用いたイオンチャネル・受容体の機能解析
パッチクランプ基本法とその応用

2光子顕微鏡による観察の基礎
スライスパッチクランプ法(基礎コース)
スライスパッチクランプ法(応用コース)
局所神経回路の形態的解析法
マウス・ラットの発生工学技術
生理学実験のための電気回路・機械工作
摂食・飲水行動発現機構入門
麻酔下動物での電気生理実験
慢性動物実験法入門
脳磁図によるヒト脳機能研究の基礎
脳機能画像解析入門

対象者　　大学院学生(修士、博士)、学部学生、若手研究者(企業研究者を含む)
募集人員　約130名
受講料　　10,400円(うち保険料200円)
オンライン申し込み:5月1日(月)-6月5日(月)
主催　自然科学研究機構生理学研究所
共催　日本生理学会、日本神経科学学会、文部科学省特定領域研究「統合脳」総括班
連絡先　　伊佐　正(生理学研究所　認知行動発達機構研究部門)
TEL: 0564-55-7761
e-mail: training@nips.ac.jp
http://www.nips.ac.jp/training/

[関連企画]
2006年7月30日(日)午後―8月1日(月)午前
文部科学省特定領域研究「統合脳」レクチャーコース
「神経回路のダイナミクス解明への多面的アプローチ」

第二回　文部科学省特定領域研究「統合脳」岡崎レクチャーコース

"Multidisciplinary Approaches to Dynamics of Neural Circuits"
「神経回路のダイナミクス解明への多面的アプローチ」
日時:2006年7月30日(日)午後―31日(月)午前
場所:愛知県岡崎市　自然科学研究機構岡崎コンファレンスセンター
予定:
7月30日(日)　午後1時半より
Anthony Grace (University of Pittsburgh, USA)
Kensaku Mori (University of Tokyo, Japan)
Yehezkel Ben-Ari (INSERM/INMED, France)
Yasuo Kubota (Massachusetts Institute of Technology, USA)
懇親会

7月31日(月)　午前9時より11時半まで
Matthew Wilson (Massachusetts Institute of Technology, USA)
Matthew C. Walker (Inst Neurol, Queen Square, UK)
問い合わせ、申し込み先:
伊佐　正(自然科学研究機構・生理学研究所)
電話0564-55-7761、FAX 0564-55-7766、電子メール　tisa@nips.ac.jp

第14回日本発汗学会総会のご案内

1．会頭:玉田康彦(愛知医科大学　皮膚科)
2．会期:平成18年8月25日(金)・26日(土)
3．会場:メルパルクNAGOYA(名古屋市東区)
(地下鉄東山線　千種駅1番出口より徒歩1分)
〒461-0004　名古屋市東区葵3-16-16
TEL:052-937-3535(代)　FAX:052-937-3673
4．プログラム
1)教育講演:「発汗における皮膚交感神経活動の役割」
　　演者:岩瀬　敏先生(愛知医科大学生理学第
2)シンポジウム:「掌蹠多汗症の総合的治療」
3)イブニングセミナー:「臨床発汗学の歴史と展開(仮題)」
演者:田村直俊先生(埼玉大学　神経内科)
4)ランチョンセミナー:「アトピー性皮膚炎におけるI型汗アレルギー」
演者:秀　道広先生(広島大学　皮膚科)
5)一般演題:口演8分、討論4分を予定しております。
6)一般公開講座:「汗の常識・非常識」ほか

講師:小川徳雄先生(愛知医科大学名誉教授)
5．演題募集:一般演題を募集いたします。
お申し込み方法(メール・郵送)は、下記総会事務局までお問合せください。
演題締切り:平成18年6月9日(金)(必着)
6．総会事務局
〒480-1195　愛知県愛知郡長久手町岩作雁又21　愛知医科大学　皮膚科学講座内
第14回日本発汗学会総会事務局　清水宏和
TEL:0561-62-3311(内2161)　FAX:0561-63-9914
E-mail:jspr2006@aichi-med-u.ac.jp
7．応募資格:演者・共同演者は日本発汗学会会員に限ります。未入会の方は下記にて入会手続きをお願いいたします。
8．日本発汗学会事務局
〒390-8621　松本市旭3－1－1
信州大学医学部器官制御生理学講座内　日本発汗学会　事務局
TEL:0263-37-2597　FAX:0263-36-5149
E-mail:i-1seiri@sch.md.shinshu-u.ac.jp

第4回オートファジーに関する国際会議「拡大するオートファジー研究の最前線を求めて」

(4th International Symposium on Autophagy :
Exploring the frontiers of expanding autophagy research)

細胞内大規模タンパク分解システムであるオートファジーは、細胞質の品質管理的役割を通して神経変性疾患や筋疾患と深く関わるだけでなく、微生物感染や細胞死においてもその新しい役割が注目されています。国内外の気鋭の研究者が集い、オートファジーの機構・制御・破綻について多角的な解析を行い、その成果を発表する国際会議を開催いたします。ポスターセッションも有ります。
URL: http://isa4th.umin.jp/
日時:平成18年10月1日(日)～10月5日(木)
場所:静岡県三島市　東レ総合研修センター
使用言語:英語
参加人数:120名
参加費:8万円(4泊5日の宿泊費、食事代、懇親会費を含む)
参加申し込み方法:ホームページ(http://isa4th.umin.jp/)から直接申込みを受け付けます。
なお、定員になり次第参加申し込みは締め切られます。
主催:第4回オートファジーに関する国際会議組織委員会(第4回ISA組織委員会)
後援:日本生化学会、日本細胞生物学会、日本神経科学会、日本分子生物学会
文部科学省特定領域研究「メンブレン・トラフィック」
組織委員長:木南英紀(順天堂大学医学部教授)

問い合わせ先(事務局):
〒113-8421　東京都文京区本郷2-1-1順天堂大学医学部生化学第一講座
電話:03-5802-1031　FAX:03-5802-5889
e-mail:isa2006@med.juntendo.ac.jp
上野　隆、谷田以誠

千里ライフサイエンスセミナー　ブレインサイエンスシリーズ第19回

「『社会行動を司る脳の分子とエピジェネティクス』―新しい人間科学をめざして」
日時:平成18年10月24日(火)10:00～17:00
場所:千里ライフサイエンスセンタービル5階ライフホール着眼点:複雑化する現代社会においては人は環境に対して様々な適応を強いられており、遺伝的要素以上に環境要因が人間の行動の基盤となっている可能性がある。しかしながら行動、とりわけ高度な社会行動に関与する分子的背景は必ずしも解析が進んでいるとはいえない。この機構は鬱、双極性障害、統合失調症、自閉症などの行動的問題点と深く関連する可能性

がある。今回はこうした社会行動関連分子とその発現について取り上げる。
コーディネーター:
大阪大学大学院医学系研究科　遠山正彌

奈良先端科学技術大学院大学　塩坂貞夫
プログラム:
1．遺伝子改変マウスの網羅的行動解析を起点とした精神疾患の研究
京都大学医学研究科先端領域融合医学研究機構　宮川剛
2．脳由来神経栄養因子BDNFの機能的SNPsと精神疾患発症の関係
産業技術総合研究所関西センター　小島正己
3．気分障害におけるグルココルチコイドと脳由来神経栄養因子の役割
国立精神・神経センター神経研究所　功刀浩
4．統合失調症発症における分子メカニズム解明
大阪大学大学院医学系研究科　松崎伸介
5．双極性障害におけるミトコンドリア・小胞体機能障害
理化学研究所脳科学総合研究センター
加藤忠史
6．神経系細胞の分化制御とエピジェネティクス
奈良先端科学技術大学院大学　中島欽一
7．精神発達障害におけるエピジェネティクス
山梨大学大学院医学工学総合研究部
久保田健夫
定員:300名
参加費:
　会員(大学・官公庁職員、当財団の賛助会員)3,000　円、非会員　5,000円、学生1,000円
申し込み要領:
(1)氏名、勤務先、〒所在地、所属、電話およびFAX番号を明記の上､郵便､FAXまたはE-mailで下記宛お申し込み下さい。
(2)事務局より受付の通知を返送いたしますので、通知書に記載した振り込み先口座に参加費をお振り込み下さい。
(3)入金を確認後、通常2週間以内に領収書兼参加証をお届けいたします。
申込先:
(財)千里ライフサイエンス振興財団ブレインサイエンス係
〒560-0082
大阪府豊中市新千里東町1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル8階
TEL 06-6873-2001　FAX 06-6873-2002
E-mail tkd-lsf@senri-lc.co.jp

第44回日本人工臓器学会大会
－人工臓器による自然治癒の誘導－

参加者・発表者募集(非会員OK)

自由討論会:立花　隆　先生
「マン・マシーン融合による生体新機能の誘導」
サイボーグ技術等の先端技術に興味をお持ちの方、自由討論会に参加をお願いします。

特別講演:大江　健三郎　先生
「「恢復する」という基本問題　医学者達への作家の手紙」
一般演題:各種人工臓器、人工感覚器、細胞との応答制御、生体組織刺激制御、ロボット技術、マイクロマシーン、サイボーグ技術等に関連のあるアイデア、発想、技術など、奮って応募してください。
会場:パシフィコ横浜会議センター
会期:11月1日(火)、2日(水)
演題募集:http://www2.convention.co.jp/jsao2006で受付
6月16日(土)締め切り
大会長:野一色　泰晴
横浜市立大学大学院医学研究科人工臓器科学

大会事務局:
〒236-0004横浜市金沢区福浦3-9
横浜市立大学　大学院医学研究科人工臓器科学tel:045-787-2782　fax:045-787-2975（事務局長:新屋匡子)
E-mail: jsao2006@convention.co.jp

CREST国際シンポジウム「脳と機械をつなぐ ― ブレイン―マシン・インタフェースの可能性」

日時:平成18年11月7日(火)・8日(水)
場所:京都大学芝蘭会館稲盛ホール(京都市左京区吉田牛の宮町)
主催:JST戦略的創造研究推進事業(CREST)「脳の機能発達と学習メカニズムの解明」

オーガナイザー:
櫻井芳雄(京都大学)
Miguel Nicolelis(Duke University)

予定口演者(アルファベット順・50音順):
Niels Birbaumer(Eberhard-Karls-University of Tubingen, ドイツ)
Eberhard Fetz(University of Washington, 米国)
Miguel Nicolelis(Duke University, 米国)
Joseph Rizzo(Harvard University, 米国)
Koichi Sameshima(University of Sao Paulo, ブラジル)
Eilon Vaadia(Hebrew University, イスラエル)
神谷之康(ATR脳情報研究所)
川人光男(ATR脳情報研究所)
小池康晴(東京工業大学精密工学研究所)
櫻井芳雄(京都大学文学研究科)
佐藤雅昭(ATR脳情報研究所)
鈴木隆文(東京大学情報理工学系研究科)
高橋晋(科学技術振興機構CREST)
八木透(東京工業大学情報理工学研究科)

プログラムの詳細と参加申し込み方法は7月頃お知らせする予定です。
問い合わせ先:ysakurai@bun.kyoto-u.ac.jp

研究助成

第3回（平成18年度）日本学術振興会賞受賞について

1．対象者
　日本国籍を有する者又は外国人であって推薦時点において我が国で5年以上研究者として大学等研究機関に所属しており、今後も継続して我が国で研究活動を予定している者であって、国内外の学術誌等に公表された論文、著書、その他の研究業績により学術上特に優れた成果を上げたと認められる者のうち、平成18年4月1日現在以下の条件を満たす者とします。
1）45才未満であること
2）博士の学位を取得していること（博士の学位を取得した者と同等以上の学術研究能力を有する者を含みます。）

2．総授賞数
本会が設置する審査会において20件程度選考します。

3．受付期間
平成18年6月5日（月）～9日（金）（必着）

4．提出先
〒102-8471　東京都千代田区一番町6番地（住友1番町ビル）
独立行政法人　日本学術振興会
総務部研究者養成課
「日本学術振興会賞」担当

詳細は、下記URLをご覧下さい。http://www.jsps.go.jp/jsps-prize/index.html

研究助成と表彰の募集
研究に対する助成

(対象課題)
第1課題　光科学の未知領域の研究
　　―とくに光の本質について
第2課題　細胞間あるいは分子間の情報伝達についての研究
(助成金総額)約3,200万円
研究に対する表彰
(対象者)光科学に関する基礎的な研究で、内容が独創的であり、かつ過去2年以内に発表された研究論文、講演、報告等の内容により対象者を選定。(35歳以下の方を対象)
(表彰金総額)　100万円
応募締切
2006年8月31日(木)
問い合わせ先
財団法人　光科学技術研究振興財団
〒430-0926　浜松市砂山町325番地の6
TEL 053-454-0598　FAX 053-454-1929
http://www.refost-hq.jp　e-mail: info@refost-cs.or.jp

第23回井上学術賞
候補者の募集

本学会は(財)井上科学振興財団より第23回井上学術賞受賞候補者の推薦を依頼されています。
希望される会員は2006年8月20日までに学会事務室(送付先　〒113-0033　東京都文京区本郷7丁目2-2本郷ビル9F　日本神経科学学会　山根　慶子)に所定の用紙に必要事項を記入してお送りください(本学会からの推薦は1　件とします))。

第23回（平成18年度）井上学術賞
受賞候補者推薦要項

財団法人　井上科学振興財団

1. 候補者の対象
自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた研究者。但し、年齢が平成18年9月20日現在で50歳未満の研究者に限ります。
2. 学術賞
本賞 :賞状及び金メダル　副賞 :200 万円
授賞件数は5件以内とします。
（注） 受賞者は、原則として1件につき1人とします。特に複数であることを必要とするときは、それらの研究者の寄与が同等であることを示してください。但し、この場合においても1件として取り扱います。
3. 推薦依頼先
下記の28学会、並びに当財団の理事・評議員等に推薦を依頼します。
4. 推薦件数
各推薦学会または各推薦者から、原則としてそれぞれ1件とします。
5. 提出方法
所定の推薦書用紙（当ホームページに掲載）に必要事項を記載し、当財団あてに提出願います。
6. 締切期日
平成18年9月20日（水）
7. 選考
当財団の選考委員会において選考し、理事会において決定します。　選考の結果は、平成18年12月中旬に推薦者に通知します。
8. 学術賞の贈呈
平成19年2月5日（月）午後4時から　東京で開催の予定。
9. 推薦書提出先
財団法人　井上科学振興財団及び連絡先

〒150-0036　東京都渋谷区南平台町 15-15
南平台今井ビル 601
電話 : 03-3477-2738　FAX : 03-3477-2747

日本数学会　日本発生生物学会
日本農芸化学会　日本応用数理学会
日本分子生物学会　日本解剖学会
日本物理学会　日本地震学会
日本神経科学学会　日本生物物理学会
地球電磁気・地球惑星圏学会
日本神経化学会　日本天文学会
日本気象学会　日本生化学会
日本化学会　日本海洋学会
日本免疫学会　日本動物学会

応用物理学会　　日本癌学会
日本植物学会　　電子情報通信学会
日本薬学会 日本細胞生物学会
日本金属学会 日本遺伝学会 高分子学会

第38回（2006年度）内藤記念科学振興賞候補者の募集

本学会は財団法人　内藤記念科学振興財団より第38回(2006年度)内藤記念科学振興賞候補者の推薦を依頼されています。
希望される会員は2006年9月2日までに学会事務室(送付先　〒113-0033　東京都文京区本郷7丁目2-2本郷ビル9F 日本神経科学学会　山根 慶子)に所定の用紙に必要事項を記入してお送りください(本学会からの推薦は1 件とします))。

問い合わせ先
財団法人　内藤記念科学振興財団
113-0033　東京都文京区本郷3丁目42番6号　NKDビル8階
電話(03)3813-3005　ファックス (03)3811-2917　E-mail　info@naito-f.or.jp

第38回（2006年度)
内藤記念科学振興賞候補者推薦要領
趣旨 人類の健康の増進に寄与する自然科学の基礎的領域において進歩発展に顕著な功績のあった研究者に対してほう賞を授与するものである。
候補者資格
1) 人類の健康の増進に寄与する自然科学の基礎的研究において独創的テーマに取り組み、進歩発展に顕著な功績を挙げた研究者
2) 候補者は単独とするが、異なる研究グループによる共同研究の場合には、連名であっても良い
3) 候補者の再度の推薦は差支えない
推薦者
1)下記27学会の代表者
高分子学会　日本獣医学会 日本農芸化学会
日本遺伝学会 日本植物生理学会
日本発生生物学会 日本ウイルス学会
日本神経科学学会　日本ビタミン学会
日本栄養・食糧学会 日本神経化学会
日本病理学会 日本解剖学会 日本生化学会
日本物理学会 日本化学会 日本生物工学会
日本分子生物学会 日本癌学会
日本生物物理学会 日本免疫学会
日本細菌学会 日本生理学会 日本薬学会
日本細胞生物学会 日本動物学会
日本薬理学会

2)当財団の役員および評議員
推薦件数:1推薦者につき1件
推薦方法　所定の用紙(候補者推薦書、宛名シール)に必要事項を記入し、当財団あて送付する
締切日 2006年10月2日(月)財団必着
選考方法 選考委員会で審査し、評議員会の同意を得て、理事会で決定する
採否の結果は、2007年3月に候補者および推薦者に通知する
授賞式・顕彰　授賞式は受賞者夫妻を招いて2007年3月20日(火)に行う
受賞者には内藤記念科学振興賞(正賞:金メダル、副賞:500万円)を贈呈する
その他
1) 候補者推薦書は、できるだけワープロでご記入下さい。(切り貼り可)
2) 推薦書用紙は両面コピーで、宛名シールは同型のシールで申請可能です。
3) 学会推薦の場合は、学会の公印を捺印ください。

JST研究提案募集（CREST第2期、さきがけ）

本文:
戦略的創造研究推進事業では新規研究提案を募集中です。
4月24日よりCREST第2期、さきがけの研究提案も募集を開始しております。
　CREST　（年額4千万～1.2億円程度）
　さきがけ　（年額1千万程度）
詳細は、下記URLをご覧下さい。

http://www.jst.go.jp/kisoken/teian.html
■ 応募締切:上記 URL をご確認ください。
■ 問い合わせ先:科学技術振興機構（JST）
戦略的創造事業本部　研究推進部、領域総合運営室
Tel:048-226-5693　　Fax:048-226-1164
E-mail:rp-info@jst.go.jp

公　　募

島根大学医学部生理学講座神経筋肉・生理学教官公募（公募期間再延長）

4 月 24 日締め切りに公募期間を延長して全国公募をいたしましたが、採用に至る応募が一件もありませんでした。そこで、以下の通り公募期間を再延長することになりました。採用予定時期と提出期限は、公的には明示しないこととなりましたが、遅くとも平成 19 年 4 月 1 日までにこちらで働くことが可能な応募者を原則とし、平成 18 年 9 月上旬に開催予定の選考委員会で選考し、適当な候補者が決まらない場合はその後 2 ヶ月に 1 回程度選考委員会を開催する予定となっておりますので、8 月末を目安に応募いただきたいと思います。

1．募集人員:助手 1 名(経験によっては学内講師も可能)
2．採用予定時期:なるべく早い時期(当教室への採用がいつ可能かをお示し願います。)
3．提出期限:特に定めませんが、採用が内定し次第、打ち切らせていただきます。
4．任期 5 年(再任基準を満たせば再任可)
5．その他:研究歴のある方は、これまでの専門分野が以下に記載した内容とあまりに乖離したものでないか、予め御確認願います。また、研究の方向性を変更したい場合は、研究の抱負の中に、その理由が読み取れる項目を折り込んで下さい。

当教室では、独自に開発した膜電位の光学的測定法を用いて中枢神経系をシステムとして解析する研究を行っています。測定装置は、1020 エレメントのフォトダイオードを受光器とした装置で、大脳皮質の自発興奮を加算処理無しに単一掃引で解析可能することが可能な優れた SN 比を有し、各エレメント約 1 ミリ秒の時間分解能で 1,000 秒以上の連続記録が可能なシステムです。この測定装置を用いて新しい切り口から神経生理学や心臓(主として興奮伝導)の実験をしたい方はもちろんのこと、並行してプログラムやハードの改造で測定装置をさらに高性能化する試みや、膨大なデータをコンピュータで自動解析する研究も行っていますので、こちらに興味がある方も歓迎します。神経生理学等の研究や、光学測定の経験は問いません。ただし、1 個の細胞を対象としたような研究を行う予定はありません。応募資格は、学士の資格を有する者(19 年 3 月卒業見込みも含む)以外特にありません。卒業見込み、修士修了見込み、研究歴が短い場合等の場合は、研究論文等の業績がなくても差し支えありません。35 歳程度までの方が望まれます。なお本学では上司の許可が得られれば、助手の身分のまま、本学の大学院・医学研究科に入学し、夜間過程に在籍することが修士過程・博士過程の双方共可能です。今回の募集で採用となった場合、希望する場合は、直ちに(平成 19 年度から)大学院研究科に入学することを認めます。

提出書類等の詳細は、
http://www.med.shimane-u.ac.jp/announce/kouza/seiri-jyosyu.html
を御覧下さい。

【連絡先】
〒 693-8501　出雲市塩冶町 89 － 1
島根大学医学部生理学講座
E-mail:hirophy2@med.shimane-u.ac.jp
Phone :0853 － 20 － 2116

東京大学 大学院総合文化研究科助手の公募

東京大学　大学院総合文化研究科　相関基礎科学系　系長 山崎泰規
募集人員:広域科学専攻　相関基礎科学系　助手1名
応募資格:博士号取得者または今年度中に博士号を取得する見込みの方。
人間を対象とする脳機能計測の研究と開発、および、それらを言語脳科学まで含めた広い分野に適用して新たな分野を開拓することに意欲を持つ方。
担当内容:教養学部後期課程(3・4年生)基礎科学科の学生実験、および同専攻の酒井助教授と共同して大学院生の研究指導を行う。
募集期間: 2006年5月31日(水)まで(必着。書類選考の上、6月中旬に面接)
着任時期: 2006年10月中旬以降の早い時期
応募書類: 1)履歴書 2)業績リスト 3)主要論文の別刷り3編以内、各2部ずつ 4)現在までの研究概要と今後の研究・教育への抱負(2000字以内)　5)応募者について所見を伺える研究者2名の氏名と連絡先
書類提出先:〒153-8902　東京都目黒区駒場3－8－1
東京大学　大学院総合文化研究科　相関基礎科学系　酒井邦嘉 宛
(封筒に「応募書類在中」と朱書し、書留か宅急便で送付のこと)
問合わせ先: 同上、電子メールｋｕｎｉ@mind.c.u-tokyo.ac.jp または電話03-5454-6261
詳細参照:
http://mind.c.u-tokyo.ac.jp/index-j.html

ポスドク募集

Misono lab @ University of Maryland Baltimore
2006年7月よりラボをスタートします。これに伴いポスドク1名を募集します。
研究テーマは神経細胞におけるイオンチャネル制御メカニズムとその役割です。特にタンパク質リン酸化に注目して、生化学、細胞生物学的手法を含めた幅広い方法を用いて研究を進めています。これまでの成果は以下の論文を参考にしてください。

Nature Neuroscience (2004) Vol. 7, 711-718
Journal of Neuroscience (2005) 25, 11184-11193

ラボのスタートアップですのでいろいろと大変になると思いますが、私がこのラボを有名にしてやるんだ、という気概のある人を期待しています。アメリカに残ってPIになる、という想いを持っている方は、職探しその他の面で特にサポートします。詳細については下記のメールアドレスに連絡してください。

【募集人数】 1名
【応募資格】 MDかPhD(見込可)。電気生理学、イメージングの経験がある方優遇。
【待遇】 University of Maryland規定に準ずる。
【応募書類】 1. Cover letter(応募理由), 2. CV(英語)、3. これまでの研究の概略と、応募者の貢献内容, 4. 推薦者3名以上の連絡先
【就任時期】 2006年7月以降、応相談。
【連絡先】御園生裕明
(hmisono@ucdavis.edu)

学習院大学理学部 教授公募

学習院大学理学部では、2008年度に大学院生命科学専攻を、2009年度に生命科学科を設立する計画を進めています。専攻・学科の開設に先立って着任し、開設の中心メンバーとなっていただく教授2名を下記の通り募集致します。希望者の応募、適任者への周知をお願い致します。

学習院大学理学部
生命科学科開設準備委員会
委員長 小谷正博

記

募集人員:教授2名
着任予定時期:2007年4月
所属等:生命科学科、生命科学専攻の設置を準備中につき、着任時は化学科ないしは物理学科に所属。それぞれ、1名の助手を採用し、研究室を主宰していただく。停年70歳。
募集分野: 新学科・新専攻の中心となり、幅広い視点から生命科学の研究と教育を活発に展開できる人材を求める。専門分野は限定しない。なお、生命科学科全体としては、分子細胞生物学を共通の基盤として、下記の三つの分野を中心にして教育・研究を進めていくことを構想している。 (1) 分子細胞生物学(分子生物学、細胞生物学、生物化学、生物物理学、構造生物学、などを含む)、(2) 個体の生物学(酵母、ハエ、線虫、メダカなどのモデル生物を用いた遺伝学、発生学、生理学、行動学、ヒトを主な対象としたガン・免疫・脳の生物学などを含む)、(3) 系統・進化生物学(ヒトを含む霊長類の進化・行動、実験的進化学、バイオインフォマティクス、理論生物学などを含む)。
提出書類: (1) 履歴書(写真貼付)、(2) 業績目録、(3) 主要論文5編(できれば総説を含む)の別刷(コピー可)、(4) 研究業績の概要と今後の研究の展望(2000字以内)、(5) 教育と新学科設立についての抱負(1000字以内)、(6) 候補者についての意見を伺える方2名の氏名、連絡先。
応募締め切り:2006年7月31日
書類提出先:〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1 学習院大学理学部事務室(封筒に「理学部教員応募書類」と朱書し、簡易書留で送付のこと)

問い合わせ先:
学習院大学理学部事務室(TEL 03-3986-0221内線6452、e-mail sci-off@gakushuin.ac.jp)
参照
URL http://www.gakushuin.ac.jp/univ/sci/top/faculty-recruit.html

大学院生(修士・博士)募集および説明会

東京大学・大学院医学系研究科・脳神経医学専攻
21世紀COEプログラム「脳神経医学の融合的研究拠点」

募集対象:医科学修士課程、医学博士課程

受験資格
医科学修士課程:大学学部卒または平成19年卒業見込みの者
医学博士課程:医学部、歯学部、獣医学部卒業者またはそれ以外の学部の修士課程を修了または平成19年3月修了見込みの者。

選考方法
医科学修士課程願書受付:平成18年7月3日から7月10日(郵送のみ、当日消印有効)
医科学修士課程入学試験: 筆記試験 8月16日
口述試験 8月 22日 (筆記試験合格者のみ)

医学博士課程願書受付:平成18年8月1日から8月8日(郵送のみ、当日消印有効)
医学博士課程入学試験:筆記試験 10月23日
口述試験 10月24日

入試のお問い合わせは大学院掛(Tel:03-5841-3309)へ。

大学院説明会
日時:平成18年6月3日(土) 午前9時半から12時まで(説明会後各研究室見学)
場所:東京大学医学部教育研究棟13階1303号室
専門分野と主任は下記の通りです。ホームページは、http://NeuroCOE.umin.jp/ からアクセスして下さい。お問い合わせ・見学申込はE-mailで。

基礎神経医学
神経病理学
井原康夫 yihara@m.u-tokyo.ac.jp(募集しません)

神経生化学
尾藤晴彦 hbito@m.u-tokyo.ac.jp

神経生物学
脳神経発生・分化(医科研)
御子柴克彦 mikosiba@ims.u-tokyo.ac.jp
神経ネットワーク(医科研)
真鍋俊也 tmanabe-tky@umin.ac.jp
COE 神経機能解明ユニット
河崎洋志 kawasaki@m.u-tokyo.ac.jp

認知・言語医学
認知・言語行動科学
認知・言語神経科学
坂井克之 ksakai-tky@umin.ac.jp
音声・言語医学
高山吉弘 y-taka@m.u-tokyo.ac.jp(募集しません)
感覚・運動神経医学
加我君孝 kimikaga-tky@umin.ac.jp

臨床神経精神医学
精神医学
加藤進昌 katon-tky@umin.ac.jp
神経内科学
辻 省次 tsuji@m.u-tokyo.ac.jp
脳神経外科学
斉藤延人 nsaito-tky@umin.ac.jp

理化学研究所
脳科学総合研究センター
象徴概念発達研究チーム

副チームリーダー
藤井 直敬

当ラボでは霊長類の電気生理実験を行う研究員を一名と、技術員を一名公募いたします。 自薦・他薦を問いませんので、応募または適任者をご推薦くださいますようお願い申し上げます。

1)募集職種
1．研究員 一名
2．技術員 一名
2)職務内容
1．理化学研究所・戦略的研究事業(研究課題:複数日本サルの社会構造認知および操作の脳機能)に研究員として参加。本計画は、社会的相互関係をもつ複数サルの多数脳領野から慢性留置多電極によって同時に神経活動を記録し、社会的脳機能を明らかにすることを目的とする。
2．上記研究をサポートする業務。
3)応募条件
1．研究員:博士号を取得者、もしくは取得予定であること。電気生理学、実験動物の扱い、コンピュータプログラム作成、統計的データ解析の経験のあることが望ましい。
2．技術員:大学卒業あるいは修士終了者。
4)勤務地
独立行政法人理化学研究所 脳科学総合研究センター(埼玉県和光市広沢 2-1)
5)待遇
年度契約の任期制職員で、期間は 2 年間。
給与は、経験、能力、実績に応じた年俸制で、通勤手当、住宅手当の支給有り、社会保険の適用有り。
休日は、土日、祝日、年末年始(12/29-1/3)、当研究所設立記念日。
その他、当研究所規程による。
6)必要書類
(1)履歴書(写真添付のこと)
(2)論文リスト(研究員の場合)
(3)自己 PR(800 字程度)
(4)推薦状(現所属長からの推薦文を含み 3 通)
7)締切日
適切な人材が集まるまで随時。集まり次第締め切り。
8)選考方法
書類審査後、面接
9)書類送付および問い合わせ先
〒 351 － 0198 埼玉県和光市広沢 2-1
理化学研究所 脳科学総合研究センター 象徴概念発達研究チーム
副チームリーダー 藤井 直敬
Tel 048-467-9611、 Fax 048-467-9645
E-mail: na@brain.riken.jp

その他

放送大学での脳科学講議放映のお知らせ

理化学研究所脳科学総合研究センター
田中啓治、岡本仁

放送大学で、以下の授業が4月3日から始まっています。
”脳科学の進歩〜分子から心まで〜”主任講師は田中と岡本ですが、BSIを始め多くの方々のご協力を得て作成されています。
講義は、神経細胞の電気的性質から始まり、脳の高次機能に至るまで、幅広い領域を、初心者向きに解説しています。
教科書は、放送大学教育振興会（http://www.ua-book.or.jp/）から、購入可能です（324ページ、3900円）。その他の大手書店でも扱っているそうです。１学期は、月曜日の朝６時から6時45分という早い時間帯に放映されますが、神経科学の入門として最適です。入門向け講座ですので、学生さん等にお勧めいただければ幸いです。

神経科学ニュースへの原稿を募集しています

求人情報、学会・シンポジウムの案内、助成金の案内のほかにも、学会への提言、研究雑感、学会見聞録、書評等神経科学の発展につながるものであればどのようなものでも結構ですので以下の要領でお送りください。
1. 原稿は電子版のみを受け付けています。原稿は電子メール添付ファイルでお送り下さい。

a. 受付可能なファイル形式はWord、EG Word（11以前）、KacisWriterです。それ以外にも或る程度対応可能ですが、事前にご相談ください。また作製に用いたアプリケーションに関わらずHTML, rtfファイルは受付可能です。テキストファイルも可ですが、その場合メール本文に埋め込んでください。
b. 画像ファイルはPICT、JPEGまたはTIFFファイルで、可能な限り圧縮して本文とは別のファイルでお送りください。
c. 求人情報、学会・シンポジウムの案内、助成金の案内に関しましては、A4 2段組で刷り上がり1/4ページを単位として作製してください。なお、フォントは原則として、タイトルには14ポイント、本文には10ポイントをご使用ください。

2. 校正は行いません（お送りいただいたファイルをそのまま利用します）ので、誤りの無いことをお確かめの上、原稿をお送り下さい。
3. ニュースへの掲載は１回のみとさせていただきます。
4. 求人情報、学会・シンポジウムの案内、助成金の案内などは特に御希望のない限り、神経科学会のホームページにも掲載します。記事の長さに制限はありませんが、可能な限り簡潔におまとめ下さい。長すぎる原稿は一部割愛させていただく場合があります。
5. 他のサイトへのリンクは原則としておこなっておりませんのでご了承ください。
6. 締切は通例偶数月の月末25日ですが、都合により変動することがあります。
7. 掲載料は不要です。
8. 原稿の送付の宛先は以下の通りです。
news@jnss.org（担当　白尾智明）宛お送りください。

編集後記

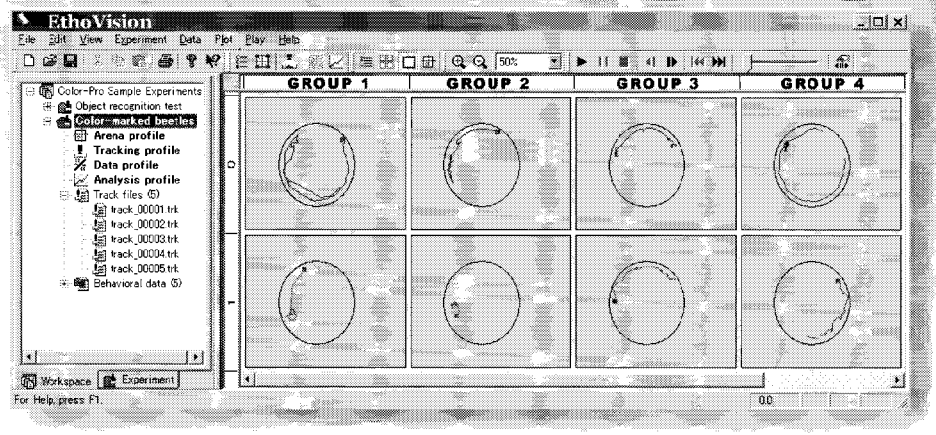
今年の神経科学学会大会も2ヶ月後に迫ってきました。演題数も過去最大になったと言うことで、神経科学の研究領域がますます発展していることが感じられます。また、今大会からは抄録データベースの使用方法が米国の神経科学会とほぼ同じことができるまで進歩しました。このように、日本神経科学学会でもIT化がどんどん進んでいるわけですが、関係各位の努力に感謝の意を表したいと思います。編集委員会においても、周囲のIT化に対応して神経科学ニュースが今後どのような役割を担っていくべきかを、いま真剣に検討しています。神経科学学会ホームページとの役割の分担、投稿記事やお知らせ記事のあり方、冊子体の廃止などの議論が出ていますが、5月30日に行われる拡大執行委員会にその内容をとりまとめて提案することになっています。それまでに、読者の皆様のご意見がいただければ幸いですので、news@jnss.org 白尾までご連絡ください。また、拡大執行委員会における議論の結果は、神経科学ニュース7月号でお知らせしたいと思います。（白尾記）

発行：広報委員会
狩野方伸（委員長）
白尾智明（ニュース編集小委員会委員長）
真鍋俊也（電子化推進小委員会委員長）
柚﨑通介（ホームページ担当小委員会委員長）

ノルダス

自動行動追跡・解析用ビデオ・トラッキング・システム

エソビジョン3.0



エソビジョンはこんな装置です

◇例えば16個並べたケージにそれぞれ2匹ずつのラットを入れ、その32匹のすべてを追跡したい…。
エソビジョンはこんな実験にパーフェクトに対応するビデオ・トラッキング・システムです。各個体の移動距離・速度、軌跡の形状、特定エリアでの滞在頻度・時間、レイテンシーなどの解析はもちろん、ソーシャル・インタラクションとして接近、回避、各個体間距離まで解析します。特に「数をこなさねばならない実験ルーティン」を力強くサポート。煩雑な作業はすべて自動化できます（上記はすべてエソビジョン・プロの仕様です）。

◇ケージはもちろん、プラスメイズ、ラジアルメイズ、ウォーターメイズ、オープンフィールド等すべての実験系に1台で完全対応します。主要な実験系には、サンプル・プロトコルを標準装備。ビギナーの方でもすぐにルーティンで使いこなせます。

さらに、格段に進歩した「バージョン3.0」では…

MPEGをはじめとするメディアファイルを映像ソースとして利用可能。これには実に多くのメリットがあります。

例えばDVDには最長で5時間もの映像を保存することができます。しかも映像のアクセスはほとんど瞬時。従来のテープ類に較べ、使い勝手・保存性で圧倒的に優れています。

メディアファイルを使用すれば、「早送りデータ取得」が可能になります。しかもテープのように時間情報が失われることはありません。パワフルなPCを使用すれば、例えば連続24時間分のデータを数時間で取得完了。

*1. エソビジョンの完全な機能実現にはUSBキーが必要ですが、これがなくても「データ取得」以外のすべての機能を使用することができます。

さらにあります。従来、必須だったA/D変換ボードが不要です。これは、ノートパソコンでもデータの取得が可能、という画期的な事実を示します。

ノートが使える。しかもエソビジョン自体にコピー制限はありません*1。そしてエソビジョンは、1つの実験プロジェクトの内容をたった一つのファイルに格納することができます。これを例えばネットワーク上に置けば、メイン・システムの所在に拘束されることなくどこでもデータの取得・解析が可能と言うことです。さらに複数のPCで解析を分担、などの離れ業も。

1台で、複数台の活躍。エソビジョンは、次世代の実験形態を先取りします

まだまだあります。従来からご要望の高かった、TTLパルス・ジェネレート機能を追加。例えばラットが特定エリアに入ったとき、フィーダを起動させるためのトリガパルスを出力できます。

従来はどうしても観察者の手を借りねばならなかった強制水泳実験。しかしエソビジョン3.0は独自のアルゴリズムを採用し、ラットのボディサーフェスの変化から「静・動」を自動判別し、カウントします。

詳しい資料のご請求・デモンストレーション等をご相談ください。

ノルダス社日本総代理店

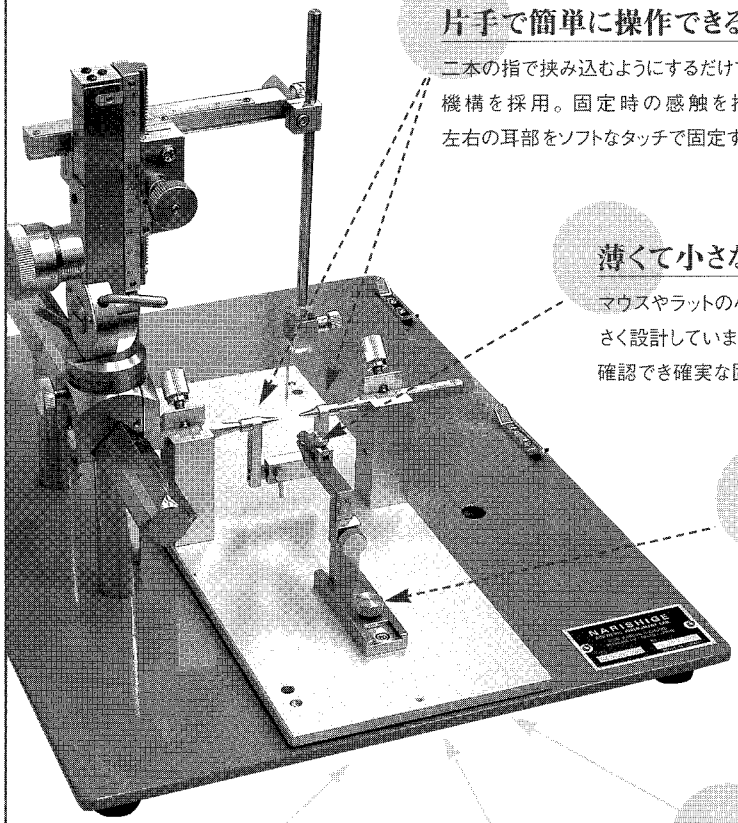
ショーシンEM株式会社

〒444-0241 愛知県岡崎市赤渋町蔵西 1−14
TEL：0564−54−1231　FAX：0564−54−3207
www.shoshinEM.com　info@shoshinEM.com

NARISHIGE JAPAN **NARISHIGE**

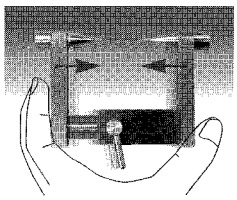
Electro-physiology

簡単に。確実に。ソフトに。
NARISHIGEの固定装置へのこだわり



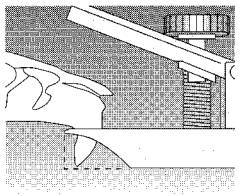
片手で簡単に操作できる補助イヤバー

二本の指で挟み込むようにするだけで滑らかに動作するアリ機構を採用。固定時の感触を指先で確かめながら、左右の耳部をソフトなタッチで固定することができます。



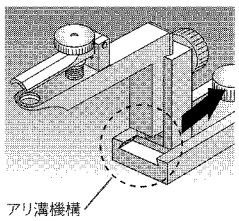
薄くて小さな口金具

マウスやラットの小さな口部に合わせて口金部を薄く、小さく設計しています。歯が固定されている様子が容易に確認でき確実な固定をサポートします。



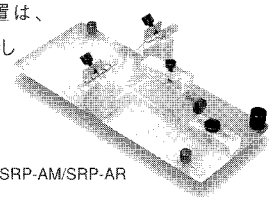
滑らかに動作する位置調整機能

口鼻金具の位置調整はアリ溝機構を採用し、きわめて滑らかに動作します。口鼻金具を引っ張る時の微細な感触が手に伝わってくるので、誤って歯を折ってしまったり、外れてしまう心配が少なくなります。



MRIに対応した頭部固定装置

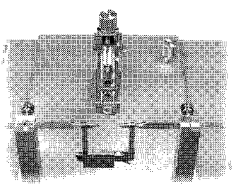
100%プラスティックの頭部固定装置は、ナリシゲのSRシリーズと高い互換性を維持しました。脳定位固定に加え、これからMRI測定も行いたいという方に最適です。



SRP-AM/SRP-AR

新生ラットからマウスまでの微細調整機構

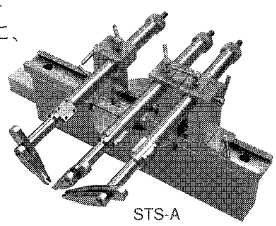
従来固定が難しかった新生ラットを安全に固定する、細部の微細な調整機構を装備した頭部固定装置を開発しました。SRシリーズとの高い互換性を維持しています。



SRS-A

デリケートな脊髄をソフトにクランプ

壊れやすく脆い脊髄を安全にクランプするために、手の力加減で微細な調整が可能。ソフトなクランプはマウスやラット新生児にも有効です。



STS-A

詳しくは当社担当までお問い合せください。

インターネットホームページなら、他の各種製品の詳細も手にとるように判ります。 http://www.narishige.co.jp

株式会社成茂科学器械研究所

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山4丁目27番9号 TEL.03 -3308-8233 FAX.03-3308-2005 e-mail: sales@narishige.co.jp